



My stories in St.Paul

2023年度入学 グローバルコース O.K



進学先：工学院大学 先進工学部 環境化学科 (推薦型選抜 指定校)

STEP 1 「森の教室」への好奇心



きっかけは、単純に「楽しそう」という直感でした。しかし、活動拠点となる森の課題を探るうちに、地域を守るための「流域治水」という重要なテーマに行き当たりました。高校生の私たちの熱意に応えるように、大学の先生や企業の方々がバックアップに加わり、気づけばプロジェクトは外部での成果発表を行うほどの大がかりなものへと発展していました。最初は自分の「楽しい」という気持ちだけが原動力でしたが、専門家を巻き込み、社会的なインパクトを生む過程を経験したことが私にとって大きな変化のきっかけとなりました。

STEP 2 地域に飛び込む

これも「楽しそうだから」で参加を始めた、地域の活動や活性化に取り組む「キャリプロ」は、私を「高校生」という枠の外へ連れ出してくれました。準備や運営の過程で、多くの大人たちと対峙する機会が激増したからです。最初は熱量に圧倒されるばかりでしたが、対話を重ねる中で、地域の未来をどれほど真剣に考えているかを知りました。



STEP 3 再生可能エネルギー

以前から兄の影響で「再生可能エネルギー」には漠然とした興味を持っていました。しかし、それが自分の活動とどう結びつくかは見えていませんでした。転機となったのは、森での治水活動や地域活性の現場を深く知ったことです。「この豊かな森の資源を守ることは、そのままエネルギーの自給自足に繋がるのではないか」「地域活性の新たなエンジンとして再エネが機能するのではないか」。これまでバラバラだった「環境問題」と「地域活動」の点が、自分の中で一本の線に繋がった瞬間でした。単なる環境への興味が、地域の持続可能性を支えるための具体的な手段へと進化したのです。自分の興味が社会の課題解決と直結しているという確信は、今の私の強い学びの動機となっています。



STEP 4 行動力を手に入れた



これまでの活動で得た最大の武器は、未知の環境へ飛び込む「行動力」だと思います。1月、地方での地域活性の研修に参加しました。大学生が主な対象でしたが、躊躇はありませんでした。一人で仙台に向かう姿を、三年前の自分だったら想像できなかったと思います。周囲は年上の大学生ばかりという環境で驚かれましたが、物怖じせず議論に参加できたのは、現場で大人たちと渡り合ってきた自負があったからです。(自信のついた私は、更に2月にも広島島の研修にも参加しました。楽しかったです) この研修を通じて、自分のこれまでの知見を外の世界で試すと同時に、全国から集まる志の高い仲間から新たな刺激を受けました。所属するコミュニティに安住せず、必要な学びを求めてどこへでも駆けつけることができる「行動力」を、これからの進路でも鍛えていきたいです。

